

東京都新宿区高田馬場4丁目1番9号
公益財団法人 国際文化カレッジ
理事長 品川 恵保

平成26年度事業報告

記

- 1 平成26年度事業報告
- 2 理事会議事録、評議員会議事録

1 平成 26 年度事業報告

I 公 1：通信教育およびこれに関連する芸術、緑、ビジネス等の継続的教育・育成事業

〔1〕各事業（公 1-1～公 1-4）の連携

当年度は、公 1 の事業全体の連携を図るために、総合写真展（公 1-3）の親睦パーティー会場や軽井沢ギャラリー館（公 1-4）に、公 1-1 としての通信教育講座の受講案内書を設置して、その普及を試みた。また、フォトマスター検定（公 1-2）においては、結果通知の際に写真関連の通信教育講座（公 1-1）や総合写真展（公 1-3）の周知を行い、知識の習得の機会や、作品発表の機会を与えるなどにより、各事業（公 1-1～公 1-4）の連携、連動を図った。

〔2〕公 1-1：通信教育およびこれに関連するアセスメントテスト

定款第 4 条（事業）第 1 項第（1）号「自動車技術、園芸・植物、美術・芸術、職業指導など各種通信教育」、および同第（2）号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する研究」に基づき、通信教育講座およびアセスメントテスト（HOSMAT：ホスピタリティ・マインド診断）の事業を以下の通り行った。なお、通信教育講座の普及活動における平成 26 年度の受講生（入学者）総数は、募集予定人数 1,282 人に対して結果は 1,075 人、アセスメントテスト（HOSMAT：ホスピタリティ・マインド診断）は受診予定人数 110 人に対して結果は 33 人であった。

（イ）通信教育講座について

1. 入学者、退学者および修了者の総数

文部科学省認定講座群においては、募集予定人数 580 人に対して平成 26 年度の入学者数は 404 人であった。また、同退学者および修了者数等は下表の通りであった。

課程名	年度当初 受講者数	年度間の異動				年度末 受講者数
		入学者数	中退者数	修了者数		
（合 計）	146	404	201	211		138
家庭園芸講座	22	41	18	19		26
自動車講座	17	186	81	107		15
総合盆栽講座	0	0	0	0		0
造園講座	0	0	0	0		0
オートバイ講座	9	30	11	16		12
ハイキングとカメラ技法講座	2	5	2	3		2
庭木と果樹の手入れ講座	8	19	7	12		8
庭の工作物手作り講座	3	6	2	3		4
写真作品創作塾	38	35	32	16		25
植物医講座	29	36	21	20		24
庭師入門講座	8	12	5	7		8
美術品鑑賞鑑定入門	10	34	22	8		14

文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連を中心とする講座群においては、募集予定人数 702 人に対して平成 26 年度の入学者数は 671 人であった。また、同退学者および修了者数等は下表の通りであった（各講座、ホスピタリティ・マインド診断付を含む合計）。

課程名	年度当初	年度間の異動			年度末
	受講者数	入学者数	中退者数	修了者数	受講者数
合計	248	671	258	339	322
レタリング講座	0	0	0	0	0
A. 実践ボールペン字	21	21	14	7	21
B. ホスピタリティマインド	5	29	11	17	6
C. トラブル対応力でチャンスに変える	10	28	11	13	14
D. コーチングで人を動かす	4	50	11	42	1
E. 説得力・交渉力を行使する	18	25	11	11	21
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	15	46	18	24	19
G. アサーション表現力で魅了する	20	110	40	51	39
I. 問題解決能力で現状を打破する	7	13	8	9	3
J. リーダーシップを発揮する	25	56	23	17	41
K. 論理的思考で実現させる	11	19	7	10	13
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	25	29	13	7	34
M. プレゼンテーションで成功する	4	13	4	4	9
N. 心理学でビジネスの成果を生む	18	70	26	38	24
O. 図解思考がクリアにする	11	36	15	17	15
P. 情報を成果に育てる	3	1	2	0	2
Q. 思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	4	8	2	4	6
R. 眠っている9割を刺激する脳の活性化法	9	76	24	43	18
S. 誰でもできる時間の超活用法	7	1	2	2	4
T. 誰もが納得「数字の力」	7	14	5	8	8
U. 実効性のあるキャリアデザイン	3	4	2	1	4
V. 新・人間関係のビタミン	6	6	2	2	8
W. 強いビジネス組織をつくる	2	0	0	0	2
X. コンサル型ビジネスの達人になる	3	0	0	1	2
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	10	16	7	11	8

2. 普及活動について

新聞や雑誌の部数減少等に伴う近年のこれら媒体による受講生募集効率の大幅な低下を受けて、文部科学省認定講座の自動車講座や写真作品創作塾、美術品鑑賞・鑑定入門講座などについては、インターネットのリスティング広告も導入して普及活動を引続き行った。この方法によると経費対効果は向上するものの、まだまだ受講生を大幅に増加させる段階にまでは至っていない。しかしながら、時代の趨勢としてこの手段により普及活動を展開する方向性は変わらないので、さらに効果が出るよう引き続き研究を重ねて行くものとする。園芸、植物関連講座では、肥料・農薬・種苗メーカーを始めとする園芸・農業関連会社やホームセンターなどの職域における受講需要につき、今後もこの分野への普及活動の可能性を追求して行くものとする。自動車講座や家庭園芸講座では、矯正施設における社会復帰等に向けた教育を目的としての採用が、当年度も継続して行われた。これにより、当年度も該当者の社会復帰等に向けた教育支援に資することができた。

写真作品創作塾とハイキングとカメラ技法講座については、受験者が安定的に推移しているフォトマスター検定事業（公1-2）と連携して、受験者の学習に資する講座としての普及活動や、総合写真展（公1-3）の参観者に対する普及活動も行った。

文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連を中心とする講座群においては、これらを採用する企業や地方公共団体などが着実に増加してきた環境を受けて、平成26年度の受講生数も着実に増加する傾向を示し、文部科学省認定講座群と合わせて幅広い領域における生涯学習、社会教育を推進することができた。

3. テキスト内容の見直し・改訂等

「総合盆栽講座」と「造園講座」は、テキスト内容および普及活動方法の見直しのために、当年度は普及活動を控えた。「洋菓子講座」は、普及活動について数年検討を重ねてきたが、講座運営の見込みが難しいので、平成25年12月に文部科学省へ廃止許可申請を行ない、平成26年3月26日に許可された。文部科学省認定講座の『自動車講座』および、文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連講座の「アサーション表現力で魅了する」「トラブル対応力でチャンスに変える」「リーダーシップを発揮する」「図解思考がクリアにする」「コーチングで人を動かす」「問題解決能力で現状を打破する」「心理学でビジネスの成果を生む」「眠っている9割を刺激する脳の活性化法」「新・人間関係のビタミン」「ビジネスで恥をかかない国語学」「実践ボールペン字講座」の計12講座は再版のタイミングで小改訂を行なった。

4. 教材テキスト製版デジタル化の実施

長年の修正で陳腐化した製版フィルムをデジタル化（データ化）する「教材製版デジタル化費用積立資金」（平成26年度から平成30年度の5か年計画）の実施について、平成26年度は、上記12講座の小改訂の進行に合わせて実施した。

①「自動車講座」の費用は2,425,140円、②ビジネス系11講座は合計で2,111,832円、③「総合盆栽講座」1,385,424円の総計、5,922,396円を積立金から取崩して費消した。

5. 学習指導

学習指導における学習指導者（専門家）および教務責任者は下表の通りに組織して、各講座とも充実した添削指導を行い、学習途上における質問（質疑応答）に対しては詳細・的確・迅速に対応して受講生の学習意欲の向上を図った。添削指導の実施延べ回数は全講座の合計で**5,069**件、質疑応答は全講座の合計で**656**件であった（細目は下表）。

なお、企業・団体における受講に対しては、人事部などの統括部署宛に、受講生全員の学習進度や成績などを細かく報告するサービスも例年同様に実施した。

スクーリング（面接指導）については、テキストや添削指導だけでは教授しにくい学習内容を中心として実施した。

[文部科学省認定講座群の学習指導者および教務責任者]

講座名	学習指導者	教務責任者
家庭園芸講座	計3名 山形大学農学部卒:1名/日本大学生物資源科学部卒・2級造園施工管理技士:1名/東京農業大学農学部卒:1名	事務局職員1名
自動車講座	計3名 元読売江東理工専門学校講師:1名/読売自動車大学校専任教員:1名/中央大学理工学部卒:1名	事務局職員1名
総合盆栽講座	計2名 山形大学農学部卒:1名/棚花門フラワーゲート技術者・2級造園施工管理技士:1名	事務局職員1名
造園講座	計3名 造園設計事務所主宰者:1名/棚花門フラワーゲート技術者・2級造園施工管理技士:1名/東京農業大学農学部卒:1名	事務局職員1名
オートバイ講座	計3名 読売自動車大学校専任教員:1名/三井住友海上火災保険㈱アジャスター・元読売江東理工専門学校講師:1名/バイクジャーナリスト:1名	事務局職員1名
ハイキングとカメラ技法講座	計3名 写真家:1名/元国立科学博物館付属自然教育園研究官:1名/国立科学博物館付属自然教育園研究官:1名	事務局職員1名

講座名	学習指導者	教務責任者
庭木と果樹の手入れ講座	計 4 名 造園設計事務所主宰者:1 名/2 級造園施工管理技士:1 名/山形大学農学部卒:1 名/東京農業大学農学部卒:1 名	事務局職員 1 名
庭の工作物手作り講座	計 3 名 造園設計事務所主宰者:1 名/2 級造園施工管理技士:1 名/東京農業大学農学部卒:1 名	事務局職員 1 名
植物医講座	計 3 名 東京農業大学農学部卒:2 名/千葉大学環境健康フィールド科学センター・農学博士:1 名	事務局職員 1 名
写真作品創作塾	計 4 名 写真家:4 名	事務局職員 1 名
庭師入門講座	計 3 名 1 級造園施工管理技士:1 名/日本大学生物資源科学部卒・2 級造園施工管理技士:1 名/東京農業大学農学部卒:1 名	事務局職員 1 名
美術品鑑賞・鑑定入門講座	計 4 名 武蔵野美術大学卒:1 名/美術評論・鑑定家:1 名/絵画保存修復工房代表:1 名/陶磁資料館館長補佐:1 名	事務局職員 1 名

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の学習指導者および教務責任者]

講 座 名	学習指導者	教務責任者
レタリング講座	計 2 名 武蔵野美術大学卒:1 名/ レタリング技能検定試験委員:1 名	事務局職員 1 名
実践ボールペン字講座	計 2 名 大東文化大学日本文学科卒・ 硬筆・毛筆書家:1 名/ 法政大学文学部書道科履修・ 硬筆・毛筆書家:1 名	事務局職員 1 名
ホスピタリティで業績アップ講座	計 2 名 早稲田大学大学院商学研究科博士課程修了・ ホスピタリティバンク研究所代表:1 名/ ホスピタリティバンク研究所主任研究員:1 名	事務局職員 1 名
トラブル対応力でチャンスに変える／コーティングで人を動かす／説得力・交渉力を行使する／コミュニケーションで自信と信頼を得る／アサーション表現力で魅了する／問題解決能力で表現を打破する／リーダーシップを発揮する／論理的思考で実現させる／発想力・創造力でビジョンを練り上げる／プレゼンテーションで成功する／心理学でビジネスの成果を生む／図解思考がクリアにする／情報を成果に育てる／思わず誰かに話したくなるビジネス雑学／眠っている 9 割を刺激する脳の活性化法／誰でもできる時間の超活用法／誰もが納得、数字の力／実効性のあるキャリアデザイン／新・人間関係のビタミン／強いビジネス組織をつくる／コンサル型ビジネスの達人になる／ビジネスで恥をかかない国語学	計 2 名 慶應義塾大学商学部卒・ 編集企画制作事務所エムスリー代表:1 名/ 慶應義塾大学文学部 社会学科卒・エム・エフ・ ジー(株)顧問:1 名	事務局職員 2 名

[文部科学省認定講座群の添削指導状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数	受けた者の平均回数
(合 計)	4,037	29.3	310.0	13.0
家庭園芸講座	390	15.0	30.0	13.0
自動車講座	2,491	166.1	147.0	16.9
総合盆栽講座	0	0.0	0.0	0.0
造園講座	0	0.0	0.0	0.0
オートバイ講座	138	11.5	23.0	6.0
ハイキングとカメラ技法講座	88	44.0	4.0	22.0
庭木と果樹の手入れ講座	124	15.5	16.0	7.8
庭の工作物手作り講座	36	9.0	5.0	7.2
写真作品創作塾	332	13.3	26.0	12.8
植物医講座	224	9.3	28.0	8.0
庭師入門講座	67	8.4	10.0	6.7
美術品鑑賞鑑定入門	147	10.5	21.0	7.0

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の添削指導状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数	受けた者の平均回数
(合 計)	1,176	4.4	511	2.3
レタリング講座	0	0.0	0	0.0
A. 実践ボールペン字	70	4.4	14	5.0
B. ホスピタリティマインド	69	17.3	23	3.0
C. トラブル対応力でチャンスに変える	41	3.2	21	2.0
D. コーチングで人を動かす	92	15.3	46	2.0
E. 説得力・交渉力を行使する	36	3.0	18	2.0
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	70	3.5	35	2.0
G. アサーション表現力で魅了する	161	4.7	81	2.0
I. 問題解決能力で現状を打破する	22	3.1	11	2.0
J. リーダーシップを発揮する	73	2.7	37	2.0
K. 論理的思考で実現させる	29	3.2	15	1.9
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	36	1.7	18	2.0
M. プレゼンテーションで成功する	17	2.1	9	1.9
N. 心理学でビジネスの成果を生む	108	6.0	54	2.0
Q. 図解思考がクリアにする	53	3.8	27	2.0
P. 情報を成果に育てる	1	0.5	1	1.0
Q. 思わず誰かに聴きたくなるビジネス雑学	18	4.5	6	3.0
R. 眠っている9割を刺激する脳の活性化法	179	10.5	60	3.0
S. 誰でもできる時間の超活用法	5	1.3	2	2.5
T. 誰もが納得、数字の力	33	6.6	11	3.0
U. 実効性のあるキャリアデザイン	8	2.0	3	2.7
V. 新・人間関係のビタミン	12	1.7	4	3.0
W. 強いビジネス組織をつくる	0	0.0	0	0.0
X. コンサル型ビジネスの達人になる	2	0.7	1	2.0
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	41	5.1	14	2.9

[文部科学省認定講座群の質疑応答状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合 計)	496	3.6	63
家庭園芸講座	44	1.7	6
自動車講座	224	14.9	28
総合盆栽講座	0	0.0	0
造園講座	0	0.0	0
オートバイ講座	32	2.7	4
ハイキングとカメラ技法講座	8	4.0	1
庭木と果樹の手入れ講座	24	3.0	3
庭の工作物手作り講座	8	2.0	1
写真作品創作塾	56	2.2	7
植物医講座	48	2.0	6
庭師入門講座	16	2.0	2
美術品鑑賞鑑定入門	36	2.6	5

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の質疑応答状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合 計)	182	0.7	91
レタリング講座	0	0.0	0
A. 実践ボールペン字	6	0.4	3
B. ホスピタリティマインド	8	2.0	4
C. トラブル対応力でチャンスに変える	8	0.6	4
D. コーチングで人を動かす	16	2.7	8
E. 説得力・交渉力を行使する	6	0.5	3
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	12	0.6	6
G. アサーション表現力で魅了する	28	0.8	14
I. 問題解決能力で現状を打破する	6	0.9	3
J. リーダーシップを発揮する	12	0.4	6
K. 論理的思考で実現させる	6	0.7	3
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	6	0.3	3
M. プレゼンテーションで成功する	2	0.3	1
N. 心理学でビジネスの成果を生む	20	1.1	10
O. 図解思考がクリアにする	10	0.7	5
P. 情報を成果に育てる	0	0.0	0
Q. 思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	2	0.5	1
R. 眠っている9割を刺激する脳の活用法	20	1.2	10
S. 誰でもできる時間の超活用法	2	0.5	1
T. 誰もが納得、数字の力	4	0.8	2
U. 実効性のあるキャリアデザイン	0	0.0	0
V. 新・人間関係のビタミン	2	0.3	1
W. 強いビジネス組織をつくる	0	0.0	0
X. コンサル型ビジネスの達人になる	0	0.0	0
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	6	0.8	3

[スクーリング（面接指導）の実施状況]

課程名	実施回数	延日数	延参加数
(合計)	4	4	59
家庭園芸講座	1	1	9
総合盆栽講座	1	1	15
写真関連講座	1	1	30
庭木と果樹の手入れ講座	1	1	5

(ロ) アセスメントテスト (HOSMAT : ホスピタリティ・マインド診断) の単独受診

1. 受診者数およびホスピタリティ社会構築に向けた活動

精神性・倫理性・社会性などの詳細な分析と診断結果の提示を通じて、個人はもとより、組織としてもこれらの強み、弱みを認識し改善、改革して行く道標として、また、個人情報や消費者保護、偽装問題をはじめとして、社会の一員としてはもとより、各組織においても極めて高いホスピタリティ・マインドが求められる時代にあつて、EQ (情動指数)、SQ (精神指数)、MQ (倫理指数) の高い個人の養成や、組織における人材の適正配置、適正採用等につなげることを目的とした本アセスメントテストであるが、当年度の単独受診者総数は 33 名の結果で、計画した人数には達しなかった。

2. 専門家の関与

本アセスメントテストに関わる専門家は、前年度と同様、「ホスピタリティで業績アップ講座(旧名称: 超CS! ホスピタリティ・マインド講座)」の学習指導者であるホスピタリティバンク研究所の専門家 2 名が解析等に当たった。

[4] 公 1-2 : 通信教育に関連する知識・技能の検定

定款第 4 条 (事業) 第 1 項第 (4) 号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する知識・技能の検定」に基づき、当法人の写真関係の通信教育講座 (写真作品創作塾、ハイキングとカメラ技法講座) に関連する、第 12 回フォトマスター／写真とカメラの実用知識検定 (略称: フォトマスター検定) を、文部科学省後援により以下の通り実施した。

(イ) 試験実施日

平成 26 年 11 月 16 日・日曜日 (通常日程試験)

及び 11 月 17 日・月曜日 (特別日程試験)

及び 11 月 18 日・火曜日 (特別日程試験)

(ロ) 試験会場

下記、各都道府県の一般会場及び団体受験会場 (準会場) の、全国 207 箇所において実施した。

No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日
1	札幌市	11月16日	23	富山2	11月16日	45	山口県	11月16日	67	神奈7	11月16日	89	北団A	11月17日
2	青森県	11月16日	24	石川県	11月16日	46	徳島県	11月16日	68	神奈8	11月16日	90	青森A	11月17日
3	岩手県	11月16日	25	福井県	11月16日	47	香川県	11月16日	69	神奈9	11月16日	91	岩手9	11月17日
4	宮城県	11月16日	26	山梨県	11月16日	48	愛媛県	11月16日	70	新潟9	11月16日	92	岩手A	11月17日
5	秋田県	11月16日	27	長野県	11月16日	49	高知県	11月16日	71	長野8	11月16日	93	宮城4	11月17日
6	山形県	11月16日	28	岐阜県	11月16日	50	福岡県	11月16日	72	長野9	11月16日	94	宮城5	11月17日
7	福島県	11月16日	29	静岡県	11月16日	51	佐賀県	11月16日	73	静岡9	11月16日	95	宮城6	11月17日
8	茨城県	11月16日	30	愛知県	11月16日	52	長崎県	11月16日	74	愛知9	11月16日	96	宮城A	11月17日
9	栃木県	11月16日	31	愛知2	11月16日	53	熊本県	11月16日	75	京都9	11月16日	97	茨城A	11月17日
10	群馬県	11月16日	32	三重県	11月16日	54	大分県	11月16日	76	大阪5	11月16日	98	栃木A	11月17日
11	埼玉県	11月16日	33	滋賀県	11月16日	55	宮崎県	11月16日	77	大阪6	11月16日	99	群馬9	11月17日
12	千葉県	11月16日	34	京都府	11月16日	56	鹿児島	11月16日	78	大阪7	11月16日	100	群馬A	11月17日
13	東京都	11月16日	35	大阪府	11月16日	57	沖縄県	11月16日	79	大阪8	11月16日	101	埼玉9	11月17日
14	東京2	11月16日	36	大阪2	11月16日	58	宮城7	11月16日	80	大阪9	11月16日	102	埼玉A	11月17日
15	東京3	11月16日	37	兵庫県	11月16日	59	宮城8	11月16日	81	福岡9	11月16日	103	千葉5	11月17日
16	東京4	11月16日	38	奈良県	11月16日	60	宮城9	11月16日	82	DT5	11月16日	104	千葉6	11月17日
17	神奈川	11月16日	39	和歌山	11月16日	61	千葉8	11月16日	83	大分A	11月16日	105	千葉7	11月17日
18	神奈2	11月16日	40	鳥取県	11月16日	62	千葉9	11月16日	84	団体H	11月16日	106	千葉A	11月17日
19	神奈3	11月16日	41	島根県	11月16日	63	東京5	11月16日	85	団体I	11月16日	107	東京9	11月17日
20	神奈4	11月16日	42	岡山県	11月16日	64	東京6	11月16日	86	団体9	11月16日	108	東京A	11月17日
21	新潟県	11月16日	43	広島県	11月16日	65	東京7	11月16日	87	団体A	11月16日	109	神奈5	11月17日
22	富山県	11月16日	44	広島2	11月16日	66	東京8	11月16日	88	北団6	11月17日	110	神奈6	11月17日

No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日	No.	会場略称	試験日
111	神奈A	11月17日	131	岡山A	11月17日	151	団体V	11月17日	171	群馬7	11月18日	191	DT1	11月18日
112	新潟7	11月17日	132	広島8	11月17日	152	鹿児島9	11月17日	172	群馬8	11月18日	192	DT2	11月18日
113	新潟8	11月17日	133	広島9	11月17日	153	鹿児島A	11月17日	173	埼玉7	11月18日	193	DT3	11月18日
114	新潟A	11月17日	134	広島A	11月17日	154	団体B	11月17日	174	埼玉8	11月18日	194	DT4	11月18日
115	石川9	11月17日	135	香川8	11月17日	155	沖縄A	11月17日	175	千葉2	11月18日	195	団体J	11月18日
116	石川A	11月17日	136	香川9	11月17日	156	団体1	11月17日	176	千葉3	11月18日	196	団体K	11月18日
117	長野6	11月17日	137	香川A	11月17日	157	団体2	11月17日	177	千葉4	11月18日	197	団体L	11月18日
118	長野7	11月17日	138	愛媛A	11月17日	158	団体3	11月17日	178	石川8	11月18日	198	団体M	11月18日
119	長野A	11月17日	139	福岡7	11月17日	159	団体4	11月17日	179	愛知3	11月18日	199	団体R	11月18日
120	静岡A	11月17日	140	福岡8	11月17日	160	団体5	11月17日	180	愛知4	11月18日	200	団体S	11月18日
121	愛知5	11月17日	141	福岡A	11月17日	161	団体6	11月17日	181	香川7	11月18日	201	団体T	11月18日
122	愛知6	11月17日	142	佐賀A	11月17日	162	団体7	11月17日	182	福岡4	11月18日	202	団体W	11月18日
123	愛知7	11月17日	143	熊本9	11月17日	163	団体8	11月17日	183	福岡5	11月18日	203	団体C	11月18日
124	愛知8	11月17日	144	熊本A	11月17日	164	北団7	11月18日	184	福岡6	11月18日	204	団体D	11月18日
125	愛知A	11月17日	145	大分9	11月17日	165	北団8	11月18日	185	DT6	11月18日	205	団体E	11月18日
126	京都A	11月17日	146	団体N	11月17日	166	北団9	11月18日	186	DT7	11月18日	206	団体F	11月18日
127	大阪3	11月17日	147	団体O	11月17日	167	北団4	11月18日	187	DT8	11月18日	207	団体G	11月18日
128	大阪4	11月17日	148	団体P	11月17日	168	北団5	11月18日	188	団体X	11月18日			
129	大阪A	11月17日	149	団体Q	11月17日	169	宮城2	11月18日	189	団体Y	11月18日			
130	兵庫A	11月17日	150	団体U	11月17日	170	宮城3	11月18日	190	団体Z	11月18日			

(ハ) 受験者数、合格者数等

写真・カメラに関わる実用知識、技能を客観的に評価認定する検定事業として、当年度は下表の通り、3級～1級の応募者数は7,227人、受験者数は6,650人、合格者数は4,319人の結果であった。なお、受験料は、前年度同様に自主会場（準会場）を設置しての団体受験の場合は10%を、一般会場で受験する団体受験の場合は5%を割り引いて実施した。

受験級	区 分	応募者数	受験者数	合格者数
3 級	個人受験・一般会場	499	428	415
	団体・一般会場受験	205	183	163
	団体・自主会場受験	827	784	693
2 級	個人受験・一般会場	837	735	616
	団体・一般会場受験	490	443	318
	団体・自主会場受験	1,576	1,505	1,191
準1級	個人受験・一般会場	644	568	233
	団体・一般会場受験	186	170	55
	団体・自主会場受験	662	640	247
1 級	個人受験・一般会場	712	641	235
	団体・一般会場受験	129	117	33
	団体・自主会場受験	460	436	120
小 計		7,227	6,650	4,319
EX認定	(1ジャンル認定)	23	23	16
	(総合認定)	17	17	9
	(追加総合認定)	6	6	2
小 計		46	46	27
合 計		7,273	6,696	4,346

(ニ) 普及活動

各階級の受験者のプロフィールを下表の通りに設定し、一般写真愛好者から写真・カメラ関連業界の従事者に至るまでに機能する検定として、当法

人の写真関連通信教育講座の受講生・修了生をはじめ、当法人が開催する総合写真展の出品者・観覧者や全国の写真愛好者、写真・カメラ関連業界など不特定多数の者を対象として、カメラ関係専門誌での広報、関連施設への受験案内書の配布やDM、関係社等への団体受験の広報活動により受験者を募る普及活動を行った。

階級	一般グループ	業界関連グループ
1 級	写真専攻大学生 優秀レベル	メーカー 営業責任者
	写真専門学校生 優秀レベル	販売店 販売責任者
	メーカー等のスクール指導者	プロラボ／総合ラボ 責任者
		写真館 撮影担当
		アシスタントカメラマン
		専門誌編集者
準 1 級		専門誌ライター
	写真専攻大学生 並レベル	メーカー 営業担当
	写真専門学校生 並レベル	販売店 販売担当
	高校写真部顧問	プロラボ／総合ラボ 従事者
	写真愛好家 歴10年以上	技術・営業担当者
2 級	地域のサークルリーダー	
	中学校写真顧問	メーカー 事務従事者
	高校写真部員	ミニラボ オペレーター
	写真愛好家 歴5～10年	写真館 窓口担当
	メーカー等のスクールメンバ	一般紙誌編集者
	地域のサークルメンバー	各種企業広報担当者
	カメラ機械愛好家	デザイナーアシスタント
	カメラ雑誌愛読者	フリー記者・ライター
3 級		マスコミ・ジャーナリスト志望者
	中学写真部員	DPE 窓口担当者
	趣味愛好家 歴5年未満	(取次店含む)
	撮影機会の多い一般者	

(ホ) 検定委員等

試験問題の作成、合否判定等に関わる当年度の検定委員は、下表の通りの写真家および写真・カメラ関連メーカー技術者により構成し、資機材の汎用的技術・機能はもとよりメーカー毎の独自の技術や機能等も試験問題に正確に反映させた。また、試験問題について、(一社)日本写真学会の学識経験者による監修も経て、より有意なものとすることに努めた。

	氏名等
プロ写真家・ 評論家関係	児島昭雄／徳光ゆかり／テラウチマサト／那和秀峻 板見浩史／赤松秀夫／枝常伊佐央／大久保晴功
写真・カメラメー カー技術者 関係	オリンパスイメージング(株)：1名／ キヤノンマーケティングジャパン(株)：1名／ (株)タムロン：1名／(株)シグマ：1名／ (株)ケンコー・トキナー：1名／ (株)ニコンイメージングジャパン：1名／ パナソニック(株)：1名／富士フイルムイメージングシステムズ (株)：1名／リコーイメージング(株)：1名／ (株)市川ソフトラボラトリー：1名

(ヘ) 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	1 団体	4 名(各級1名)
当法人による表彰	優秀団体賞 24 団体 人材育成貢献賞 4 団体	42 名(各級合計)

[5] 公1-3: 写真・水墨画・絵画等の展覧会

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき、当法人の通信教育受講生の継続学習の促進や広く一般の美術、芸術文化の普及、振興に寄与する目的で、以下の通りに展覧会を開催した。

(イ) 総合写真展

1. 展示点数等

当年度・第18回展では、審査により入選以上に該当した2,283点の作品を展覧会会場(下記4.)に展示して公開した。

出品部門		展示作品数
半切サイズ	フィルム写真部門	333
	デジタル写真部門	1,230
全紙サイズ	フィルム写真部門	163
	デジタル写真部門	557
合 計		2,283

2. 公募活動

前年度同様、当法人の「写真作品創作塾」、「ハイキングとカメラ技法講座」といった写真関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生に対して、写真作品を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に当法人が実施するフォトマスター検定の受験者、あるいは当法人が運営する展示館施設の観覧者・利用者を含む不特定多数の者に門戸を開く公募展として、カメラ関係専門誌、案内DM、カメラ関係販売店店頭でのリーフレット配布等の広報活動により作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に送付した。

3. 審査、審査員等

審査員は、実績のある写真家を中心とする以下の専門家で構成し、応募作品の審査方法、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。なお、最終審査はその厳正を図るために、出品作品を希望規定サイズ(半切または全紙サイズ)にプリント(紙焼き)した作品により行った。

氏 名	経 歴
川合 麻紀	プロ写真家
徳光 ゆかり	プロ写真家
テラウチマサト	プロ写真家
板見 浩史	写真評論家
丸林 正則	プロ写真家

4. 会期、会場、参観者数等

平成26年12月5日(金)から12月11日(木)の会期で、東京都美術館・1階第2～4展示室・2階第4展示室(東京都台東区上野公園8-36)を会場に、写真文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示・公表し、開催期間中の参観者は5,804人であった。

5. 表彰式

表彰式には全国より413名の出品者が参加し、平成26年12月5日(金)、午前10時より11時45分の時間帯で浅草ビューホテル(東京都台東区西浅草3-17-1)において開催した。なお、表彰式への参加は無料とし、付き添いについても席を用意して入場できるように配慮した。

6. 審査結果の公表

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また上位作品については作品写真・氏名・賞名を全国版写真専門誌に掲載して公表した。

(ロ) 日美展「総合水墨画展」

1. 展示点数等

当年度・第19回展では、審査により入選以上に該当した1,301点の作品を展覧会会場(下記5.)に展示して公開した。当事業の計画は、1,400点の展示であったが、消費税増税などの影響もあったのか、約7%の減少となった。

出品部門		展示作品数
作家部門	F30号/F20号/F15号	102
一般部門	F30号/F20号/F15号/F10号 /F8号/F6号/半切1/2	777
臨画部門	F10号/F8号/F6号/半切1/2	345
俳画部門	F8号/F6号/色紙	62
無鑑査出品	F50号/F30号/F20号	15
合 計		1,301

2. 公募活動

当法人の美術関連の通信教育講座(美術品鑑賞・鑑定入門講座、レタリング講座)を中心とする受講生・修了生に対して、墨を主体にして描く水墨画作品(類似の俳画作品を含む)を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に不特定多数の者にも門戸を開く公募展として、インターネット広告、案内DM、リーフレット配付などにより作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に提示した。

3. 審査、審査員等

当年度の審査員および本展実行委員は以下の水墨画家等専門家で構成し、応募作品の審査、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。

※当年度は下記33名の委嘱審査員のうち、伊藤 昌/畝村 石道/大竹 卓/久山 一枝/呉 斉旺/沈 和年/根岸 嘉一郎/濱中 応彦/藤崎 千雲/松本 深雪の10名の専門家が当番審査員として審査に当たった。

五十嵐 玉俊(水墨画家)/伊藤 昌(水墨画家)/打矢 恵(水墨画家)/畝村 石道(水墨画家)/浦上 義昭(水墨画家)/王 子江(水墨画家)/大竹 卓(水墨画家)/岡原 大畢(水墨画家)/岡村 南紅(水墨画家)/川端 豊次(水墨画家)/金 醒石(水墨画家)/久山 一枝(水墨画家)/呉 斉旺(水墨画家)/小林 東雲(水墨画家)/潮見 冲天(水墨画家)/篠原 貴之(水墨画家)/沈 和年(水墨画家)/杉谷 隆志(水墨画家)/高橋 英男(水墨画家)/千野 曜生(水墨画家)/千葉 玄象(水墨画家)/根岸 嘉一郎(水墨画家)/濱中 応彦(水墨画家)/藤崎 千雲(水墨画家)/馬 驍(水墨画家)/松井 陽水(水墨画家)/松本 深雪(水墨画家)/丸山 東子(水墨画家)/村山 華風(水墨画家)/山田 大作(水墨画家)/姚 小全(水墨画家)/吉見 公子(水墨画家)/王 俊宇(水墨画家)

※審査員による審査結果の最終承認等を行う当年度の「実行委員」は以下により組織した。

河野 元昭(秋田県立近代美術館館長、尚美学園大学大学院教授、東京大学名誉教授)/島尾 新(東京大学文学部美学美術史学科卒、同大学院美術史学専門課程修士課程修了、学習院大学教授)/安河内 眞美(美術鑑定士)/町田 泰宣(公益社団法人日本南画院会長)/品川 恵保(当法人理事長)

4. 現代水墨作家作品特別展示(現代水墨作家展)

本特別展示は、流派・派閥を超えた質の高い水墨芸術を第19回総合水墨画展に併設して展覧することにより、総合水墨画展はもとより日美絵画展(下記ハ)の出品者や観覧者の芸術に関わる涵養に資すると同時に、総合水墨画

展および日美絵画展と相まって、我が国の美術、芸術文化の振興、発展により寄与することを目指して開催した。当年度は、我が国の水墨画界の代表的作家 45 名(下表)を招聘し、開催に要する経費は、前年度同様に当法人が負担(表装および作品の搬入出経費は作家負担)した。

阿部 清子／五十嵐 玉俊／伊藤 昌／打矢 恵／畝村 石道／浦上 義昭／及川 聡子／大竹 卓／岡本 東子／越智 波留香／梶岡 俊幸／川端 豊次／金 醒石／久保木 桂子／久山 一枝／呉 一騏／呉 斉旺／越畑 喜代美／酒井 祐二／坂田 祐加里／篠原 貴之／新恵 美佐子／沈 和年／杉谷 隆志／醍醐 イサム／田中 武／千野 曜生／千葉 玄象／並木 功／西村 蘭子／根岸 嘉一郎／蓮村 泰子／濱中 応彦／藤崎 千雲／古舘 興／馬 驍／正木 康子／松本 深雪／三浦 ひろみ／村山 華鳳／山口 英紀／山田 大作／姚 小全／吉田 翔／王 俊 宇瀟

5. 会期、会場、参観者数等

平成 26 年 8 月 7 日から 8 月 16 日の会期で、国立新美術館(東京都港区六本木 7-22-2)を会場に、美術・芸術文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示、公表し、開催期間中の参観者は 12,228 名であった。

6. 表彰式

表彰式には全国より 249 名の出品者が参加し、平成 26 年 8 月 7 日、午前 10 時より 11 時 30 分の時間帯で ANA インターコンチネンタル東京(東京都港区赤坂 1-12-33)において開催した。なお、表彰式への参加は無料とし、付き添いについても席を用意して入場できるように配慮した。

7. 審査結果の公表および作品集

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また、入選以上の全作品を掲載した作品集も制作して公表・販売し、当年度は 790 部を発行した。

(ハ) 日美展「日美絵画展」

1. 展示点数等

当年度・第 15 回展では、審査により入選以上に該当した 1,846 点の作品を展覧会会場(下記 4.)に展示して公開した。

出品部門		展示作品数
油絵部門	F30 号／F20 号	263
	F15 号／F10 号	235
	F8 号／F6 号／F4 号	175
水彩画部門	F30 号／F20 号	92
	F15 号／F10 号	165
	F8 号／F6 号／F4 号	261
パステル画部門	F30 号／F20 号	11
	F15 号／F10 号	14
	F8 号／F6 号／F4 号	23
色鉛筆画部門	F30 号／F20 号	17
	F15 号／F10 号	59
	F8 号／F6 号／F4 号	167
デッサン部門	F30 号／F20 号	2
	F15 号／F10 号	11
	F8 号／F6 号／F4 号	26
日本画部門	F30 号／F20 号	35
	F15 号／F10 号	27
	F8 号／F6 号／F4 号	13
ちぎり絵部門	F10 号	23
	F8 号／大色紙	112
絵手紙部門	ハガキ形式／ 巻き手紙形式	115
合 計		1,846

2. 公募活動

当法人の美術関連の通信教育講座（美術品鑑賞・鑑定入門講座、レタリング講座）を中心とする受講生・修了生に対して、油絵・水彩画・パステル画・色鉛筆画・デッサン・日本画・ちぎり絵・絵手紙の各ジャンルの絵画作品を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に当法人が運営する展示館施設（軽井沢千住博美術館、および軽井沢ギャラリー館）の観覧者を含む不特定多数の者にも門戸を開く公募展として、案内DMやリーフレット配付、協賛社を窓口とする広報活動等により作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項（出品票付）を事前に送付した。

3. 審査、審査員等

当年度の審査員および本展大賞選考委員は以下の画家等専門家で構成し、応募作品の審査、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。

※「審査員」は以下の通り、部門別に当該分野の専門画家を置き、部門別の審査に当たった。	
油絵部門	板倉 暁（画家）／遊馬 賢一（画家）
水彩画部門	西丸 式人（画家）／岸本 庄八郎（画家）
パステル画部門	たのい 俊一（画家）／大枝 隆司郎（画家）
色鉛筆画部門	大枝 隆司郎（画家）
デッサン部門	村松 昌三（画家）
日本画部門	山本 真也（画家）／井坂 洋一（画家）
ちぎり絵部門	早川 美子（ちぎり絵作家）／大森 恭子（ちぎり絵作家） ／玉井 祐子（ちぎり絵作家）
絵手紙部門	花城 祐子（絵手紙作家）／平賀 啓子（絵手紙作家）
※上記の審査員による部門別の審査結果に基づいて、部門を横断しての上位優秀作品に授与する賞（全体賞）を選定、決定する当年度の「大賞選考委員」は、以下により組織した。	
川口 紀美雄（画家）／千足 伸行（成城大学教授、画家）／ 中野 淳（武蔵野美術大学名誉教授、画家）／ 永井 龍之介（美術鑑定士他）／品川 恵保（当法人理事長）	

4. 会期、会場、参観者数等

平成26年8月7日（木）から8月16日（土）の会期で、国立新美術館（東京都港区六本木 7-22-2）を会場に、美術・芸術文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示、公表し、開催期間中の参観者は14,912名であった。

5. 表彰式

表彰式には全国より346名の出品者が参加し、平成26年8月8日（金）、午前10時より11時30分の時間帯でANA インターコンチネンタル東京（東京都港区赤坂 1-12-33）において開催した。なお、表彰式への参加は無料とし、付き添いについても席を用意して入場できるように配慮した。

6. 審査結果の公表および作品集

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また、入選以上の全作品を掲載した作品集も制作して公表、販売し、当年度は877部を発行した。

[6] 公1-4：芸術・自然科学に関する展示館施設

定款第4条（事業）第1項第（5）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき以下の通りに事業を運営した。

（イ）軽井沢千住博美術館

1. 展示作品等

一般の観覧者はもとより、当法人の「美術品鑑賞・鑑定入門講座」、「写真作品創作塾」、「ハイキングとカメラ技法講座」、「レタリング講座」といった美術・芸術関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生の継続的学習に資し、あるいは当法人が開催する「日美絵画展」、「総合水墨画展」、「総合写真展」の出品者、観覧者を含む不特定多数の者に対する美術・芸術の涵養にも資するべく、当年度は、星のふる夜に（絵本原画一式）、夜桜満開、四季瀧図、ウォーターフォール、Dayfall/Nightfall、イグアス、フォーリングカラー、フラットウォーター、sky、遙か、クリフ、ザ・フォールに加え、最新作の「光」など、千住博氏の初期作品から最新作までの掛け替えを含む延べ50数点を選抜して展示した。

2. 開館日数、入館者数、障害者の入館料免除対応等

当年度は、平成26年4月1日から平成27年3月31日（平成26年12月26日から平成27年2月28日の期間は冬期休館）の期間で、開館日数は273日、延べ入館者数は下表の通り54,338名であった。なお、入館料を全額免除としている障害者および中学生以下の当年度の入館者数は、障害者が1,734名、中学生以下が1,920名となり、一定の社会貢献を果たすことができた。

入館者区分		入館人数
有料入館者	一般・個人	43,231
	一般・団体（20名以上）	4,152
	学生（高校～大学生）・個人	2,459
	学生（高校～大学生）・団体（20名以上）	520
	前売り券使用入館者等	23
入館料免除対象者	中学生以下	1,920
	障害者	1,734
その他	招待等	299
合 計		54,338

3. 学芸員等による入館者に対する作品解説活動

入館者（主に団体入館者）からの要請があった場合には、当館学芸員による展示作品の解説を、無料で実施し、入館者の美術作品に対する理解の深化に努めた。

(ロ) 軽井沢ギャラリー館

当年度は、前年度末の3月1日から引き続き平成26年4月21日まで、公1-1および公1-3(イ)事業との連携として、「第17回総合写真展・上位作品特別展」を開催。4月24日から5月26日までは、公1-1事業の園芸系通信教育講座および公1-4(ハ)事業との連携として「フラワーアーティスト丹羽英之 Exhibition-eternal time-「Spring Forest」」を開催した。なお、5月3・4日には丹羽氏によるフラワーデモンストレーションを実施した。5月29日から7月7日までは、千住博氏の公的空間におけるアートワークをパネルで紹介する「千住博のパブリックアート展」を開催。その際、赤坂サカス Biz タワーのパブリックアートとして制作された巨大陶板作品「四季樹木図」の原画も公開した。7月10日から7月24日までは、東京藝術大学大学院金工科を修了した4名のアーティストによるグループ展、「K I N Z O K U-祝迫芳郎と立体作家たち」を開催し、19~21日にかけて小学校4年生以上を対象としたワークショップも開催し、金属を鑿(タガネ)で叩いて模様をつけていく技法を学んだ。7月26日から8月6日を第一部、8月6日から8月18日までを第二部とした「千住博の弟子たち展」では、京都造形芸術大学で千住博氏に師事した若手日本画家たちの作品を展示。第二部期間中の8月12日から18日にかけては、夏休み企画「初めての日本画」と題して、小学生以上~高校生以下を中心とした希望者を募り、簡単な日本画の描法を指導するワークショップも開催した。8月21日から9月16日までは、公1-1および公1-3(ハ)事業との連携として「全国公募・日美絵画展上位作品特別展」を開催。9月19日から11月17日までは、「千住博のパブリックアート展」と題して、5月の同名展とは別の千住博氏のアートワークをパネルで紹介した。11月20日から12月25日にかけては、春の展示とは別に、冬の軽井沢をイメージした「フラワーアーティスト丹羽英之 Exhibition-eternal time-「Winter Lake」」を開催した。そして、冬期休館期間があけた平成27年3月1日から3月26日まで、軽井沢や浅間山をテーマとした写真展、「2014 軽井沢写真コンテスト・作品展」(主催 一般社団法人軽井沢観光協会)を開催した。

以上のように、当ギャラリー館では、多角的な展示を行なうことで、軽井沢千住博美術館の観覧と合わせて美術、芸術文化等の振興に広く寄与するべく多くの事業を実施した。

開催期間	催し内容
(平成26年3月1日) ~ 平成26年4月21日	第17回総合写真展・上位作品特別展
平成26年4月24日 ~ 平成26年5月26日	フラワーアーティスト丹羽英之 Exhibition-eternal time-「Spring Forest」 ◎フラワーデモンストレーション 5月3日~4日 13:30~14:30
平成26年5月29日 ~ 平成26年7月7日	千住博のパブリックアート展
平成26年7月10日 ~ 平成26年7月24日	K I N Z O K U-祝迫芳郎と立体作家たち ◎ワークショップ「初めての彫金」 7月19日~21日 午前と午後各1回ずつ開催
平成26年7月26日 ~ 平成26年8月6日	千住博の弟子たち展【第一部】
平成26年8月8日 ~ 平成26年8月18日	千住博の弟子たち展【第二部】 ◎ワークショップ「はじめての日本画」 8月12日~18日 午前と午後各1回ずつ開催
平成26年8月21日 ~ 平成26年9月16日	全国公募・日美絵画展上位作品特別展
平成26年9月19日 ~ 平成26年11月17日	千住博のパブリックアート展
平成26年11月20日 ~ 平成26年12月25日	フラワーアーティスト丹羽英之 Exhibition-eternal time-「Winter Lake」
平成27年3月1日 ~ 平成27年3月26日	2014 軽井沢写真コンテスト・作品展

(ハ) 軽井沢カラーリーフガーデン

1. カラーリーフガーデンの活用

Acer platanoides 'Crimson king' (ノルウェーカエデ 'クリムソン・キング' /カエデ科) や *Betula pendula* 'Golden Cloud' (ヨーロッパシラカバ 'ゴールデン・クラウド' /カバノキ科)などの木本、*Lysimachia ciliata* 'Fire Cracker' (リシマキア・キリアタ 'ファイヤー・クラッカー' /サクラソウ科)や *Tradescantia × andersoniana* 'Sweet Kate' (トラデスカンティア・アンダーソニアナ 'スイート・ケイト' /ツユクサ科)などの草本等々、他の植物園等では見聞し難いカラーリーフプランツを約 150 種類以上、総数約 6 万株植栽している本ガーデンについては、植栽している主な種類の名前を科名・学名付で表記し、その写真も掲載した銘板を作成してガーデン内の主な繁茂地に設置し、観覧者の啓発、教化に努めた。

(ニ) 平成 26 年度の美術品購入について

美術品の購入は、「美術品購入積立資金」計画に基づいて行われている。

平成 25 年 6 月、軽井沢千住博美術館・「The Fall room」(ザ・フォール・ルーム)の増築に合わせてこの展示室に飾る「The Fall」(ザ・フォール)等の代金 230,000,000 円 (①1995 年「ザ・フォール」・150 百万円、②2008 年「イグアス」・30 百万円、③2011 年「ウォーターフォール」・20 百万円、④2012 年「ウォーターフォール」・15 百万円、⑤2013 年「三春の滝桜」・15 百万円全 5 点の合計)を平成 25 年度と 26 年度の 2 回分割払いで購入した。

平成 26 年度の美術品購入は次の通りである。

- (1) 「The Fall」等の第 2 回分割払い金・115,000,000 円。
- (2) 「2013 年大徳寺襖絵掛軸ウォーターフォール」・13,100,000 円。
- (3) 「1998 年波の詩」・20,000,000 円

以上の合計 148,100,000 円を購入した。

Ⅱ 収 1：出版、物品販売、展覧会に関わる表装代行・親睦パーティー、貸室および業務受託の事業計画

[1]収 1-1：出版

定款第4条（事業）第1項第（3）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する各種出版物の刊行」に基づき、当法人が運営する通信教育講座の学習内容等に関連する以下の検定試験の受験対策用教本等を、受験希望者にカタログで案内するなどして販売した。当事業の計画では、フォトマスター検定関係：1,400冊、デジタル技術検定関係が1,820冊、ラジオ音響技能検定関係で1,060冊、レタリング技能検定関係で5,010冊であったが、フォトマスター検定関係は、前年度・前々年度の問題をまとめた過去問題集第4巻を新刊として発売したので、合わせて4,037部と大幅に増加した。デジタル技術検定関係は、企業の団体受験の減少などもあり、23%減となった。なお、デジタル技術検定については、2級制御試験問題集・4級試験問題集を新規刊行した。ラジオ音響技能検定関係は15%程度の減少となり、レタリング技能検定関係も予定数の17%減の実績となった。

関連する当法人の 通信教育講座等	出版物の内容・種類と販売部数
文部科学省認定 「写真作品創作塾」 （公1-1） 文部科学省認定 「ハイキングとカメラ技法講座」 （公1-1） フォトマスター検定 （公1-2）	写真・カメラの全般的な知識、技法に関わるフォトマスター検定について、その過去問題の解答・解説を行う受験対策用教本。写真・カメラの全般的な基礎知識、基本技法について学ぶ教本 ＜出版物の種類＞ ① フォト検 過去問題の解答と解説1～4／②写真とカメラの基礎知識／③写真とカメラの基礎知識（追補） ＜販売部数＞ 当年度の販売部数は、合計：4,037部 ①フォト検 過去問題の解答と解説1～4：1,185部 ②写真とカメラの基礎知識：1,466部 ③写真とカメラの基礎知識（追補）：1,386部
文部科学省認定 「自動車講座」 （公1-1） 文部科学省認定 「オートバイ講座」 （公1-1） 文部科学省認定 「写真作品創作塾」 （公1-1） 文部科学省認定 「ハイキングとカメラ技法講座」 （公1-1） フォトマスター検定 （公1-2）	自動車・オートバイ、あるいはデジタルカメラのデジタルシステムや音響に関係する、デジタル技術検定、またはラジオ・音響技能検定の過去問題の解答・解説等の受験対策用教本。 ＜出版物の種類：デジタル技術検定関係＞ 5級模擬問題解説集／4級模擬問題解説集／3級模擬問題解説集／2級模擬問題解説集／4級最新既出問題・解説集／3級最新既出問題・解説集／2級最新既出問題・解説集／2級制御部門試験問題集／4級試験問題集 ＜出版物の種類：ラジオ音響技能検定関係＞ 4級最新既出問題集／4級受験読本／3級最新既出問題集／3級受験読本／2級最新既出問題集／2級技術教本 ＜販売部数＞ 当年度の販売部数はデジタル技術検定関係で計1,408部、ラジオ音響技能検定関係で計906部、合計2,314部であった。
レタリング講座（公1-1） レタリング技能検定（収1-5）	レタリングに関する用語解説、常用漢字の文字見本帳の役割をはたすもの。下書きから墨入れまで手順を追って、レタリングの技法を詳細に解説したもの。検定試験の各級の範囲や選定基準が網羅されており、レタリング技能検定のすべてが分かる参考書。 ＜出版物の種類＞ 書体サンプル集／実戦レタリング／レタリング技能検定ガイド ＜販売部数＞ 書体サンプル集：3,573部。実戦レタリング：356部。 レタリング技能検定ガイド：242部

[2]収 1-2 : 物品販売

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき、以下の通りに当法人主催の展覧会に関わる出品作品の制作等に必要な用具用材類販売、出品者自身の展示作品を印刷するなどした記念品類の販売、および展覧会会場に設置した売店での用具用材類の販売、ならびに当法人の展示館施設(ミュージアムショップ)における観覧者への関連商品等の販売を行った。なお、日美絵画展および総合水墨画展に関わる出品希望者または出品者に対する関連商品の販売は、出品希望者に配布する各展の出品要項へのカタログ同封、あるいは入選以上該当者への授賞名通知(審査結果通知)にカタログを添付するなどして購入者を募った。当事業は社会情勢など購買層の購買力・購買意欲に大きく影響されるため、予想を的確に見込むことは非常に難しいが、魅力ある商品の展開を模索し続けることで、一人当たりの購買金額の向上を目指し、収益を改善させ収益性を高めることを目標とする。

	販売品目と販売点数等
日美絵画展関連商品類 (公1-3)	<カタログでの販売品目> 油絵用筆類/油絵具類/キャンバス類/画用液/水彩用筆類/水彩絵具類/水彩用紙/色鉛筆/日本画用筆/麻紙ボード/パステル/パステル用フィキサチーフ/パステル用スケッチブック/汎用スケッチブック/ちぎり絵用和紙類/ちぎり絵用台紙/顔彩類/画用印/絵手紙用筆/絵手紙箋/自作を印刷したパネル/自作を印刷したハガキセット等、約 65 品目 <同販売点数等> 当年度は、購入者が 1,302 人、販売商品の延べ販売数が 1,852 点であった。
総合水墨画展関連商品類 (公1-3)	<カタログでの販売品目> 毛筆類/墨/墨液/顔彩/用紙類/印泥付雅印/印泥/印矩/下敷/紙断包丁/ドーサ塗り用刷毛/ドーサ液/わんぱう/膠液/自作を印刷したパネル/自作を印刷したハガキセット等、約 160 品目 <同販売点数等> 当年度は、購入者が 955 人、販売商品の延べ販売数が 1,749 点であった。 <総合水墨画展会場に設置した売店コーナーでの販売> 上記に準じた水墨画関連の用具・用材類を中心に雑多取り揃えて総合水墨画展会場の一角に売店コーナーを設け、出品者や観覧者の便にも供する目的で販売した。本売店における収入は 867,790 円であった。
展示館施設関連商品類	<販売品目> ポストカード/レターセット/ミュージアムフォルムノート/オリジナル名刺入れ/作品アートタイル/シンボルマークキーホルダー/オリジナル菓子類/美術館カタログレゾネ/美術館 DVD/千住博の各種著作物/カラーリーフガイドブック等、約 400 品目 <販売点数等> 当年度は、販売商品の延べ販売点数は 50,656 点であった。

[3]収 1-3：展覧会に関する表装代行・親睦パーティー

定款第4条（事業）第1項第（5）号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づいて開催した各展覧会に関わる展示作品（入選以上該当作品）の表装代行、および出品者が希望により参加する親睦パーティーの開催に関わる事業を以下の通りに運営した。なお、各展覧会における表装は、額装や軸装などの材質・形状・色柄等の違いなど本来の作品性とは異なる二次的要素によって作品の本質的な鑑賞が妨げられることを防ぐためにその規格と品質、仕様の統一を図る目的で、あるいは出品者が全国各地にわたり在住地域によっては適確な表装手配に困難を来す場合もあること、あるいは不良梱包などにより表装が発送途上で破損する危険を回避し、表装済作品の嚴重梱包・送付に要する出品者負担を軽減するなど、出品者の利便性確保の目的で、事前に表装代行に関わる料金等を出品要項に記載してこれを出品希望者全員に知らせめた上で当法人が信頼できる専門業者を選定して代行依頼した。また、出品者に対しては、展覧会終了後に、リースの場合は作品のみを（総合写真展および総合水墨画展は裏打ち・マット付の状態）、買取の場合は表装した状態のままで返送した。

（イ）総合写真展（公1-3）に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装（規定サイズへの紙焼き除く）代行した作品点数
半 切	買取	1, 0 4 1
	リース	5 2 2
全 紙	買取	5 5 8
	リース	1 6 2
合 計		2, 2 8 3
総合写真展の親睦パーティーは会費制により以下の通り実施した		
開催日時：平成26年12月5日（金）12時～14時		
場 所：浅草ビューホテル（東京都台東区西浅草3-17-1）		
参加人数：179人		
その他事項：上位作品をスライド映写して会場で公表すると同時に審査員による当該作品の講評と解説を行った。		

（ロ）日美展「総合水墨画展」（公1-3）に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装代行した作品点数
F50号	買取	2
	リース	3
F30号	買取	1 6 1
	リース	6 9
F20号	買取	1 8 1
	リース	8 2
F15号	買取	8 7
	リース	2 4
F10号	買取	1 5 8
	リース	3 4
F8号	買取	2 1 9
F6号	買取	4 3
半切1/2	買取	2 0 9
色紙	買取	2 9
合 計		1, 3 0 1
日美展「総合水墨画展」の親睦パーティーは会費制により以下の通り実施した		
開催日時：平成26年8月7日（木）12時～14時		
場 所：ANA インターコンチネンタルホテル東京（東京都港区六本木1-12-33）		
参加人数：168人		
その他事項：上位作品をスライド映写して会場で公表すると同時に審査員による当該作品の講評と解説を行った。		

(ハ) 日美展「日美絵画展」(公1-3)に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装代行した作品点数
F30号	買取	151
	リース	51
F20号	買取	149
	リース	65
F15号	買取	146
	リース	47
F10号	買取	258
	リース	83
F8号	買取	308
F6号	買取	266
F4号	買取	165
大色紙	買取	38
ハガキ形式	買取	71
巻き手紙	買取	44
合 計		1,846
日美展「日美絵画展」の親睦パーティーは会費制により以下の通り実施した 開催日時：平成26年8月8日(金)12時～14時 場 所：ANA インターコンチネンタルホテル東京(東京都港区六本木1-12-33) 参加人数：210人 その他事項：上位作品をスライド映写して会場で公表すると同時に審査員による当該作品の講評と解説を行った。		

[4]収1-4:貸室

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」および同第(6)号「その他この法人の目的達成に必要な事業」に基づき、貸室料を前払いで月額216,000円(税込)、水道光熱費を実費払いとして当法人の展示館施設(公1-4)の建物の一部(床面積162.13㎡)をカフェ用に貸室する事業を運営した。

[5]収1-5:業務受託等

定款第4条(事業)第1項第(2)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する研究」に基づき、関連通信教育講座の学習指導等に寄与、反映させるべく、「デジタル技術検定」(当法人の自動車、オートバイ、デジタルカメラ関連講座に関連)、および「ラジオ音響技能検定」(当法人の自動車、オートバイ講座に関連)、レタリング技能検定(当法人の美術品鑑賞・鑑定入門講座、日美展に関連)の試験実施に関わる業務(受験に関わる案内書配布等、試験会場予約、検定委員会運営、試験日の諸対応等)を主催事業として実施した。なお、本事業は公益財団法人実務技能検定協会が主催し、当財団が業務受託していた事業を、平成24年度に事業譲渡で継承したため、本項目に分類している。

(イ) デジタル技術検定

1. 試験実施日

平成26年6月22日・日曜日

平成26年11月23日・日曜日

2. 試験会場

各都道府県の本会場及び特設会場(準会場)において実施した。

6月(本会場16、準会場25、計41会場)

11月(本会場16、準会場28、計44会場)

3. 受験者数、合格者数等

本検定は、情報処理・制御に関する技術をデジタル技術という観点からまとめて評価するもので、当年度は下表の通り、応募者数は2,511人、受験者数は2,304人、合格者数は1,354人の結果であった。なお、受験料は本会場実施団体および延べ30名以上の準会場団体の場合は10%を、一般会場で受験する団体受験の場合は延べ15名以上受験で10%を割り引いて実施した。

受験級	応募者数	受験者数	合格者数
1 級情報	38	30	9
1 級制御	55	44	7
2 級情報	386	343	180
2 級制御	756	676	298
3 級	817	770	517
4 級	430	414	319
5 級	29	27	24
合 計	2, 511	2, 304	1, 354

4. 普及活動

工業高校・高等専門学校などの関連する教育機関や企業に受験案内書を送付する他、ポスター掲示、ウェブサイト、専門誌への情報提供等により、受験者を募集した。

5. 検定委員等

検定委員は下記学識経験者により構成し、委員会を開催して、試験問題の作成や合否判定等を行った。

日本大学名誉教授：1 名／東京工業高等専門学校名誉教授：1 名／

東京工科大学教授：1 名／日本大学教授：1 名

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	1 団体	6 名(各回・各級 1 名)
当法人による表彰	4 団体	92 名(各回各級合計)

(ロ) ラジオ・音響技能検定

1. 試験実施日

平成 26 年 11 月 9 日・日曜日

2. 試験会場

各都道府県の本会場及び特設会場(準会場)において実施した。

11 月(本会場 12、準会場 20、計 32 会場)

3. 受験者数、合格者数等

本検定は、エレクトロニクス・オーディオの知識・技能をアナログ技術という観点から総轄して評価するもので、当年度は下表の通り、応募者数は 849 人、受験者数は 770 人、合格者数は 389 人の結果であった。なお、受験料は本会場実施団体および延べ 30 名以上の準会場団体の場合は 10%を、一般会場で受験する団体受験の場合は延べ 15 名以上受験で 10%を割り引いて実施した。

受験級	応募者数	受験者数	合格者数
1 級	9	7	2
2 級	170	151	35
3 級	258	229	117
4 級	412	383	235
合 計	849	770	389

4. 普及活動

工業高校・高等専門学校などの関連する教育機関や企業に受験案内書を送付する他、ポスター掲示、ウェブサイト、専門誌への情報提供等により、受験者を募集した。

5. 検定委員等

検定委員は下記学識経験者により構成し、委員会を開催して、試験問題の作成や合否判定等を行った。

日本大学名誉教授：1名／元日本電気㈱技術者：1名／

元松下通信工業㈱技術者：1名／元NHK受信技術部長：1名

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	1 団体	2 名
当法人による表彰	1 団体	23 名(各級合計)

(ハ) レタリング技能検定

1. 試験実施日

平成26年6月1日・日曜日

2. 試験会場

各都府県の本会場及び特設会場(準会場)において実施した。

(本会場20、準会場151、計171会場)

3. 受験者数、合格者数等

本検定は、美しく表情豊かな文字をデザインする知識と技能を評価するもので、当年度は下表の通り、志願者数6,312人、受験者数6,167人、合格者数3,975人の結果であった。なお、受験料は、自主会場の団体受験の場合は10%を、一般会場で受験する団体の場合は、5%を割り引いて実施した。

受 験 級	志願者数	受験者数	合格者数
1 級	44	44	3
2 級	642	637	170
3 級	3,889	3,823	2,418
4 級	1,737	1,663	1,384
合 計	6,312	6,167	3,975

4. 普及活動

工業高校・専修学校・専門学校などの関連する教育機関や団体に受験案内書を送付する他、ポスター掲示、ウェブサイト、情報誌等への情報提供等により受験者を募った。

5. 検定委員等

平成26年度の検定委員は、下記の専門家により構成し、委員会を開催して試験問題の作成や合否判定等を行った。

デザインオフィス主宰・グラフィックデザイナー：2名／

デザインオフィス主宰・文字・書体デザイナー：2名／

孔版文字・孔版画家&文字デザイナー：1名／

多摩美術大学造形表現学部デザイン学科講師・

文字書体デザイナー：1名／

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	2 団体	2 名
外部団体の表彰		
当法人による表彰	14 団体	112 名(各級合計)

2 理事会議事録、評議員会議事録
(添付)